

■2014年度JQAA総会



於 日本生産性本部
2014年4月23日 (水)

1. 開会の辞
2. 主催者挨拶
3. 会員数確認
4. 議長選出

<議案>

1号議案：活動経過報告と前期決算報告の承認

- ① 各部会活動成果
- ② 2013年度会計報告

2号議案：当期活動計画と予算案の承認

- ① 活動基本方針
- ② 新組織体制
- ③ 各部会活動計画
- ④ 2014年度活動予算

3号議案：役員を選任

- ① 役員候補受付・紹介
- ② 役員選出
- ③ 新役員代表挨拶

活動経過報告と前期決算報告の承認

- ① 各部会活動成果
- ② 2013年度会計報告

■ アドバンスド・アセスメント・プログラム（AAP開催）

《計画》アセッサー自身が、質の高い申請書やフィードバックレポートを提供できるように、学習・演習の場を作り研究支援活動を行う。

《成果》顧問を招き、アセッサー16名によって下期に7講義を開催した。経営学に加え文章の読解力や作成力を高める重要性を改めて認識。

《課題》次回対象者の絞り込みと参加要請が残されているが、アセスメントスキルとして必要であることから14年次もAAP2を開催する。

■ 経験から学ぶJQA入門コース（コンテンツ完成と開催未）

《計画》経営品質の考え方に共感し活動の実践・導入を計画している経営者や推進者の方々を対象に、セミナー形式の共学の場を提供する。

《成果》導入初期段階や現場体験談を通じ実践事例を教材として「顧客価値を高めるデジタルプロセス創造」を完成済。初回講演は未実施。

《課題》聴講者の募集と新たな体験談の発掘など課題は残るが、部会活動を実践するために、14年度は完成コンテンツで5月に初回開催する。

コンテンツ開発部会 2013年度成果

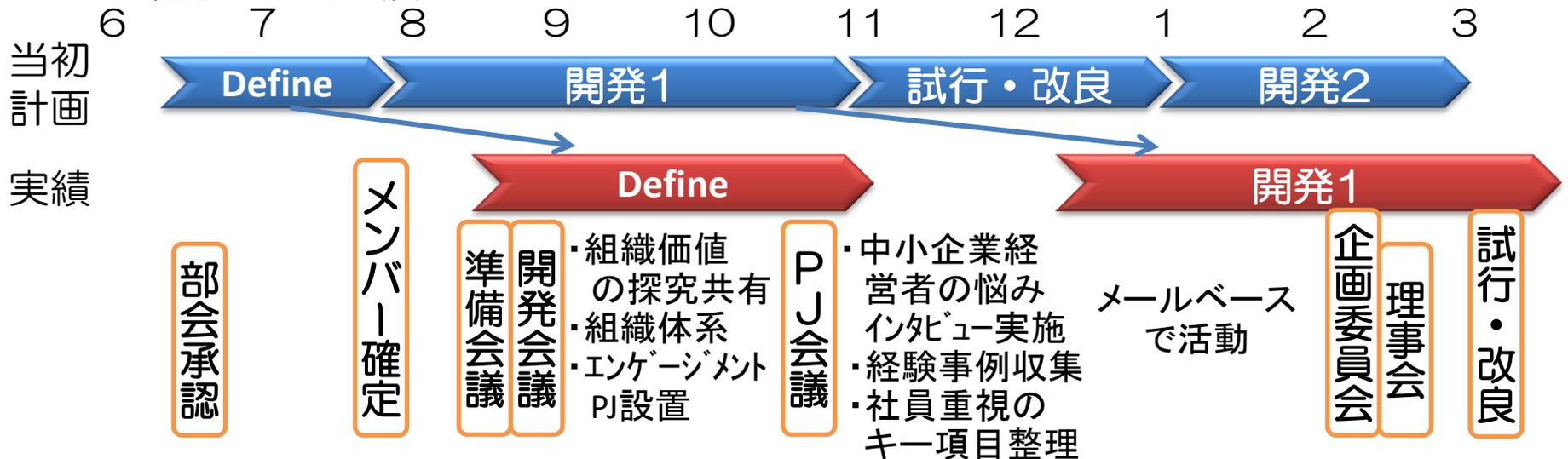
■ 目標

- ① 2013年度中に、2本の研修プログラムを開発・提供する
- ② アセッサーのフォローアップ・プログラムの考え方、体系を模索し、開発が必要なプログラムを明確にする

■ 成果

- ① 「社員重視のマネジメント」講座のプログラムを開発した
 - ・ 紹介セミナー開発完了、基礎コース基本設計完了
- ② 中小企業経営者へのインタビュー、メンバーの経験事例収集によりニーズとコンテンツの有効性を確認
- ③ 積み残し課題
 - ・ セミナー実施には至らず
 - ・ チーム編成、活動スタートが遅れた
 - ・ チームビルディングに時間を要した

日程計画と実績



■ 目標と成果

- ① 研究会の開催回数未達：目標4回→実績3回
- ② 実践事例テーマのセミナーを設定できず、予定回数より1回減
- ③ 理事・運営委員以外の参加者数は目標未達：30人/回→20人/回
- ④ 予実対比（収支）予算未達：140千円→107千円（達成率76.4%）

■ 参加者分析結果

- ① 認定セルフアッセサーの比率が高く、概論的テーマ（2/27BSC）でも75%→非アッセサーへの広報がまだ不十分
- ② 3,000人以上規模の大企業からの参加者の比率が低い。大企業からの参加者減→全体の参加者減という傾向が続いている
- ③ 一般参加者による講演内容、グループディスカッションの評価は高い

■ 運営委員の貢献

- ① 運営委員のNWから研究会講師招聘1回
- ② 研究会振返り文発信、Q&A調整等、研究会のフォローを運営委員が担当

■ 積み残し課題

- ① 研究会セミナーの開催目標、参加者数目標の達成
- ② 研究会セミナー講演者、テーマの発掘強化：広報部会との連携強化
- ③ 研究会セミナー後の参加者へのフォロー強化

注) 実践研究部会の成果報告は、第9期(2013/7月~2014/6月)の中間報告とします。

■ ミッション

経営改革、組織改革に取り組む実務者の「課題解決支援」

■ 方針

- 自社取り組みを語り、他社取り組みに学ぶ！
- 実践研究部会で課題を討議する！ (課題解決の「気づきの場」)
- 「気づき」をその後の取り組みに活かす！ (課題解決取組み「支援」)

■ 当初計画と成果見込 (第9期)

- 開催計画：2013/7月~2014/6月 8~10回開催
成果：2013/7月~2014/6月 8回開催見込 (3月時点6回完)
- 人員計画：6名
成果：9名/7社
- 活動計画：「課題解決支援」に向けた新たな活動検討
成果：発表者のその後の取り組み支援
某社CS大会にて校條理事長講演 (CS取組み)
「気づきの場」の充実を目指し事後相談の強化に取り組む
討議課題の事前送付
Gr 討議とファシリテーションの導入

広報部会 2013年度成果

■当初計画と成果

| | |
|--------------------|--|
| JQAA通信の更なるコンテンツの充実 | イベントと連動して機動的に記事を構成し、28回配信（283号～310号）。Webからのメルマガ登録者：2014/3時点で49名（+10名） |
| ジャーナル21号の発行 | チーム21より発行。チーム21と連携しフォーラム・セミナー・Webで販売（チーム21成果に記載）。併せてバックナンバーの販売強化とデッドストック処理 |
| 運営委員拡大 | 運営委員44名（2013/6）⇒50名（2014/3） |
| 顧客の要望・期待に関する情報収集 | 顧客価値経営フォーラムでJQAC協力によるJQAAの認知度アンケート調査実施（回収結果:50%程度の認知度） |
| Webコンテンツの充実 | メンテナンスと研究会参加者の対応整備に留まった |
| 透明性のある会計管理 | 毎月管理による部会単位での収支状況把握 |

■積み残し課題

- ① 各部会の提供するコンテンツと連動した集客活動
- ② 運営委員増加に繋がるJQAA認知度向上活動
- ③ JQAA認知度を高めるためのWebコンテンツの継続的な更新

■ 位置づけ

- ① 理事長直轄の“チーム 21” 11月発足：広報部の負荷増大による代替機能
- ② 短期発行の実現：企画・制作・編集・校正の一本化

■ ジャーナル21号の基本コンセプト

- ① JQAAの主要広報物として位置づけ「読みたくなる・買いたくなる」
- ② 購読対象者の明確化→経営者、経営革新推進者並びに認定セルフアセッサー

■ 主要掲載内容

- ① JQA協議会代表、及びJQAリーダーからの警鐘と提言
- ② 特別座談会と受賞企業の深堀
- ③ 基準書改定及び最新MBO解説
- ④ 地協活動・元気活動、世界活動紹介
- ⑤ JQAA活動紹介 等

■ 成果

- ① 1,000冊印刷
- ② 3月末時点で570冊販売。（内訳：顧客価値経営フォーラム等での販売120冊 大口顧客（450冊））

■ 積み残し課題

- ① 書籍発行技能の継承
- ② 原稿収集方法の改善
- ③ 販売力の強化

2013年度会計報告（1）

| 収入（単位千円） | 予算 | 実績 | 支出 | 予算 | 実績 |
|--------------------------|-------|-------|---------------------------|-------|-------|
| コンテンツ開発部会 研修プログラム2コース | 320 | 0 | コンテンツ開発部会 講師謝礼、その他 | 310 | 10 |
| アッセサー部会 セミナー 2コース | 270 | 243 | アッセサー部会 講師謝礼その他 | 250 | 132 |
| 学習部会 講演・セミナー 4回 | 640 | 319 | 学習部会 講演・セミナー 3回 | 500 | 261 |
| 実践研究部会 年間 10回開催 | 72 | 126 | 実践研究部会 年間 8回開催 | 42 | 58 |
| 広報部会 アッセサージャーナル発行 | 450 | 696 | 広報部会 ジャーナル制作 IT関連費用 | 450 | 539 |
| | | | 理事会・企画委員会費用 | 238 | 58 |
| | | | 総会費用 | 40 | 24 |
| 小計 | 1,752 | 1,384 | 小計 | 1,830 | 1,082 |
| 2012年度繰越金 | 598 | 598 | | | |
| 合計 | 2,350 | 1,982 | 合計 | 1,830 | 1,082 |

<備忘録>

①次期繰越金：900千円

②残余資産：合計214,734円

内訳：PC：43,520円、JQAジャーナル在庫171,214円（639冊分）

2013年度会計報告（2）

監査報告書

経営品質アセッサーフォーラム

理事長 校條 亮治 様

2014年 4月18日

監事

黒瀬 晋 

藤代 光洋 

2013年度会計監査

当監事は、経営品質アセッサーフォーラムの規約に基づき、
2013年度（期間：2013年6月1日から2014年3月31日）における、
同フォーラム活動に関わる会計報告書を監査した結果、会計処理は公正と
認められる手続きによって行われていることを確認いたしましたので、
その旨、監査報告いたします。

以上

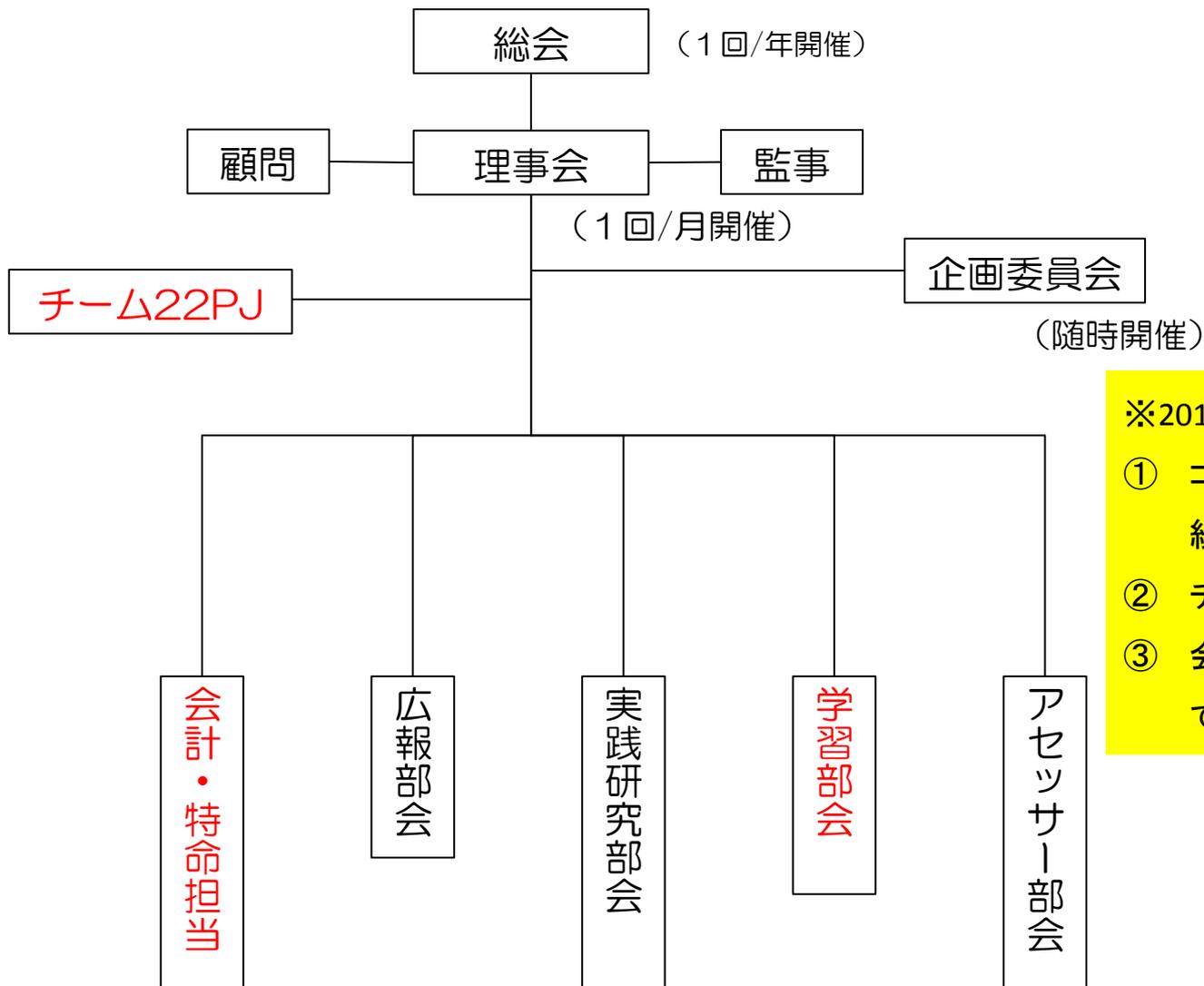
当期活動計画と予算案の承認

- ① 活動基本方針
- ② 組織体制
- ③ 各部会活動計画
- ④ 2014年度活動予算

1年目の成果を反映した活動展開

1. 活動計画を具体的に実践する力量のアップ
2. コンテンツの品質向上と集客活動が連動する部会間の連携強化
3. JQAA認知度を高める広報体制の確立
4. JQAA全体収支を強く意識した部会活動

2014年度JQAA組織体制案



※2013年度からの変更点

- ① コンテンツ開発部会を学習部会に統合
- ② チーム22PJを新設
- ③ 会計・特命担当を独立した組織として新設

各組織概要（1）

| 名称 | 構成員 | 内容 |
|----------|-----------------|--|
| 総会 | 理事・運営委員 | 年1回の開催。①運営委員の除名②理事及び監事の専任または解任③事業報告及び収支計算書並びに正味財産増減書の承認④定款の変更⑤会の解散及び残余財産の処分⑥その他、理事会において必要と認められた事項⑦その他、法令に準ずる事項 |
| 理事会 | 理事 | 原則月1回。①JQAAの業務執行の決定②理事の職務執行の監督③理事長及び副理事長の選定及び解職④理事・運営委員より企画提案されたコンテンツの採用の可否 |
| 監事 | | ①理事の職務執行の監査 ②監査報告書の作成 |
| 企画委員会 | 理事長、副理事長、部会リーダー | 理事会の諮問機関（随時） ①理事・運営委員より企画提案されたコンテンツ、理事会提案前の部会横断的課題、JQAA運営に関する企画立案等の協議 |
| チーム22 PJ | 理事・運営委員 | ①アッセッサージャーナル22号の企画・作成 |
| 顧問 | | 理事会の求めによる助言 |

各組織概要 (2)

| 名称 | 構成員 | 内容 |
|----------|---------|---|
| アッセッサー部会 | 理事、運営委員 | ①JQACから移管されたアッセッサーフォローセミナーの運営。②経営に役立つ研究（アセスメント、マーケティング） |
| 学習部会 | 理事、運営委員 | ①経営革新に役立つJQAAセミナー・講演の企画・開催 ②JQAAセミナー・講演向けオリジナルコンテンツの開発 |
| 実践研究部会 | 理事、運営委員 | 5～6名の参加を単位とした経営革新実例に基づく研究会の開催・運営 |
| 広報部会 | 理事、運営委員 | ①JQAA広報に資するJQAA通信等媒体を通じた情報発信 ②各部会の開催イベントへの集客につながるマーケティング ③運営委員拡大のための活動 ④顧客ならびに運営委員の情報管理 |
| 会計・特命担当 | 理事 | ①会計管理 ②理事長指示に基づく特命事項の取り組み |

2014年度各部会活動計画

アセッサー部会 2014年度計画

「部会方針：アセッサー個々人の資質向上を求め活動する」

■ アドバンスド・アセスメント・プログラムⅡ

《目標》 アセッサー個人の実践力を高め、アセスメント品質向上を図る。

《計画》 13年度AAPを短縮改善し5回/コースとする。アセッサー学習聴講者を新たに募集し、顧問の講義と演習形式のセミナーを開催する。

《開催》 9月スタート～1月終了：募集6月より

■ アドバンスド・アセスメント・プログラムⅢ（マーケティング）の準備

《目標》 アセスメントに必要なマーケティング能力を磨く。

《計画》 企業の強みとなるビジネスモデルを認識するための、現場型マーケティングの実際を5回にわたり学ぶ。→アセッサー、革新推進者を対象に下期開講を目指します。

■ 経験から学ぶJQA入門コース

《目標》 経営革新を始めた方々を対象として経営品質の理解を得て導入へとお誘いし、かつ経験者の実践力を産業界への貢献に転嫁させる。

《計画》 13年度に作成したコンテンツで14年度冒頭から公演開催を行う。経営者やアセッサーを対象に、セミナー形式の共学の場を提供。

《開催》 上期：5月開催 下期：12月開催(予定) 1ヵ月前から募集

■ 部会方針

- ①「社員重視のマネジメント」講座の確実な立ち上げ
- ② JQAA研究会の着実な運営

■ 目標

- ①紹介セミナー：同一内容を複数回集中開催、計80名
本コース：2クラス×各4回+2ヶ月後フォロー、計20名
応用コース：企画開発
- ②研究会：5回開催、（一般25名+理事・運営委員10名）/回

■ 計画

開催予定

- ①紹介セミナー：18:30-21:00 6・7月4回、8・9月2回
本コースⅠ：13:00-17:00 7/16開講、4回+2ヶ月後フォロー
本コースⅡ：13:00-17:00 10/7開講、4回+2ヶ月後フォロー
応用セミナー：上期中に内容を固め企画答申
- ②研究会：6月、7月、9月、11月、1月

注) 実践研究部会の活動計画は、第10期(2014/7月~2015/6月)の活動計画とします。

■ ミッション

経営改革、組織改革に取り組む実務者の「課題解決支援」
(JQA視点で経営改革、組織改革の取り組みを考える!)

■ 部会方針

新たな活動(4つのアクション)による「課題解決支援」
~改革の「気づきの場」を目指して~

- ① 発表前の討議課題送付 (参加者全員の事前検討)
- ② 発表時の討議シナリオ作成 (参加者全員からの意見・提案)
- ③ 発表者の討議メモ持ち帰り (事務局での討議メモ作成と提供)
~「気づき」をその後の改革に活かすために~
- ④ 発表後のフォローアップ (発表者のその後の取り組み支援)

■ 活動計画・目標(第10期)

- ① 開催時期: 2014/7月~2015/6月 8回~10回開催
- ② 参加人員: 6名
- ③ 活動内容: 新たな活動で改革事例をつくる
(Before/After事例をつくる)

■ 部会方針

- ① 顧客ニーズを把握しながら、JQAA全体の広報に努める。
- ② 各部会の提供するコンテンツ（セミナー、出版等）の集客につながるマーケティング活動を展開する。
- ③ 活動の希薄化に陥らないよう、仮説・検証のサイクルを確実に行き、具体的実践力を高める。

■ 活動計画・目標

- ① 各部会コンテンツに対する集客活動の強化
 - 各部会コンテンツの参加顧客分析を通じた集客手法のレベルアップ→各部会の集客目標、販売目標の達成（各部会と共有）
 - アセッサー予備群（潜在顧客）に対する集客手段の開拓（JQACとの連携）
- ② JQAA認知度向上に資する広報体制の確立
 - Webコンテンツの充実。
 - リニューアルも視野に入れた新Webサイトへの移行検討（計画策定を上半期。開発投資:30万円程度）
- ③ 運営委員メンバーの拡充によるJQAA運営体制の強化
 - 上記活動を通じて、運営委員の純増10名を目標にした発掘
 - 地方協議会との連携

■ ミッション

アセッサージャーナルの企画、編集、発行

■ コンセプト

- ① 理事長直轄のプロジェクト組織。
- ② ジャーナルは、JQAA組織と活動の中心的「**広報機関誌**」
- ③ JQAC主催の顧客価値経営フォーラム開催時期に発行

■ 計画

- ① 発行時期：2015年2月
- ② 発行部数：500部（前年は大口顧客があり1000部）
- ③ 編集方針：「**読みたくなる、買いたくなる！**」
時機を得た特集、JQACと連動した啓発、JQAA活動報告、地域連携、受賞企業紹介等が基本

■ 収支計画

- ① 年度内売上：40万円（@1000円価格据え置き×400冊）
- ② 費用：38万円
（印刷費計25万円、会議・交通費計3万円、原物含謝礼10万円）
- ③ 損益分岐点販売部数＝380冊

2014年度活動予算

| 収入 (単位千円) | 金額 | 支出 | 金額 | 収支 |
|--|-------|------------------------------|-------|------|
| アセッサー部会 JQAAバズド・アセメント研究会 アセスメント体験コース | 308 | アセッサー部会 講師代、会議室代、他 | 293 | 15 |
| 学習部会 JQAA研究会 社員重視のマシム外講座 | 1,368 | 学習部会 講師代 会議室代、他 | 1,245 | 123 |
| 実践研究部会 年間 6名程度・10回開催 | 72 | 実践研究部会 会議室代、その他 | 67 | 5 |
| 広報部会 | 0 | 広報部会 Web再開発 IT維持費用、その他 | 400 | ▲400 |
| チーム22PJ ジャーナル販売 | 400 | チーム22PJ ジャーナル制作費、他 | 380 | 20 |
| | | 理事会 企画委員会等費用 | 100 | ▲100 |
| | | 総会費用 | 100 | ▲100 |
| 小計 | 2,148 | 小計 | 2,585 | ▲437 |
| 2013年度繰越金 | 900 | 2014年度繰越金 | 463 | |
| 合計 | 3,048 | 合計 | 3,048 | |

役員を選任

- ① 役員候補受付・紹介
- ② 役員選出
- ③ 新役員挨拶

加藤修明理事並びに黒瀬晋監事の退任に伴い、
理事、監事の選任を行いたい。

理事候補 新井 勉

理事候補 中野康範

監事候補 加藤修明